

4. フッ化物含有寒天印象材を用いたウ蝕予防方法（第1報） — 連合印象法について —

○篠崎 英一，広田恵美子（福岡市・開業）

木村 光孝（九齒大・小児）

当院において、ウ蝕予防抑制処置方法として、乳歯列に対してAPFゲルとアルギン酸印象材を用いたトレー法変法（当院では印象法と呼んでいる）を行っているが、混合歯列期の小児に対してウ蝕予防処置を行う目的で熱可逆性ハイドロコロイド印象材である寒天印象材のゾル、ゲル現象（約60℃でゾル状態を示し、37℃前後でゲル化し硬化する事）に着目し、これに数%のフッ化物を混入してウ蝕予防用寒天印象材をゾル状態にしておき、それを対象歯歯表面に注入、その上から練和したアルギン酸印象材をトレーに盛って口内歯列に圧接固定する方法である。その間にフッ化物が歯表面に取り込まれる。今回はそのフッ化物含有寒天の特徴、製法、術式、利点及び *in-vitro* での歯表面へのフッ素の取り込み予備実験について報告する。

寒天の特徴

1. スティック状のゲルである。
2. 従来の寒天印象材と同じ様に取り扱うことができる。すなわち、従来の寒天の寒天用シリンジに装填出来る。又、100℃で沸騰させ軟化（ゾル化）させて、60℃の保温バスに入れておく。
3. 粘性が約 2,000ポアズである。

術 式

1. 歯表面の清掃（主にエアフローで）
2. トレーの試適
3. 口腔内に寒天の注入及びゲル化
4. アルギン酸印象材の練和
5. アルギン酸印象トレーの圧接固定

6. トレーの撤去

利 点

1. 唾液と歯牙を完全に隔離できる。
2. 唾液に寒天中フッ素が稀釈されることがなく、フッ素濃度が保たれる。
3. トレー撤去時に寒天も完全に口腔外に取り出されるため、フッ素が口腔内に残留しない。
4. 操作も簡単で、かつ操作時間も短い。